○○に関する認知言語学的分析

―〇〇を中心に―[[1]](#footnote-1)\*

~~認知花子（言語大学）~~**執筆者の情報は書かないこと**

要旨

ここに日本語の要旨を300～400字で入れる。要旨は，結論を中心に作成し，簡潔かつ，本文の内容がわかるように。

キーワード

スキーマ　推論　構文文法

1. **はじめに**

このファイルは『認知言語学研究』 (*Journal of Cognitive Linguistics*) の投稿用のファイルなので，このファイルに直接書き込んでいくことができる。

1. **フォント・ポイントと形式**

フォント（文字の書体）に関しては，日本語はMS明朝，英語及び数字はTimes New Romanとする。ポイント（文字の大きさ）に関しては，本文は10.5ポイント(見出し[各セクションのタイトル]は，太字とする) ，論文タイトルは12ポイントを使用する。

例文番号は，すべて括弧付きで，(1), (2), (3) ...とし，その下位区分は，a. b. c. ...とする。例文と本文の間は１行の空行を入れる。

　本文内で引用を行う場合には以下のような書き方にする。

（田中 2012: 277）,（山下・高野 2014: 239-241）,（Lakoff & Johnson 1980: 13-16),（山田（他）2010: 34）, (Quirk et al. 1985: 1764）

執筆者自身の論文を引用する場合には、本人が特定されないよう、（投稿者　2010: 31）として表記すること。

1. **表と図**
	1. **表**

表には「表１」「表２」のように通し番号をつけ，表の上側にキャプションをつける。表の中の文字には9ポイント以上を使う。数字は半角英数とする。

表1　表の例

 　　　得点 　　条件

 　A B 行動あり 　行動なし

 1 1 6 7

 1 0 3 2

 0 1 4 1

 0 0 1 4

*注：* N=28

* 1. **図**

図についても，「図１」「図２」のように通し番号をつける。図の下側にキャプションをつける。図の中の文字には9ポイント以上を使う。

図1　図の例

1. **参考文献**

日本語の文献については，下記の例を参照にし，日本語以外の文献については最新のAPAに準じるものとする (現在はAmerican Psychological Association 2019 7th edition)。配列は，まず日本語文献を50音順でリストし、次に外国語文献をアルファベット順にリストする[[2]](#footnote-2)。また、投稿者自身の文献は、日本語文献であれば五十音順の最後に「投稿者」として、また日本語以外の文献であればアルファベット順の最後に「Author」として、それぞれ表記すること。（以下の例を参照）

**参考文献**

岩立志津男 (2008).「文法の獲得＜１＞―動詞を中心に―」小林春美・佐々木正人（編）『新・子どもたちの言語獲得』東京：大修館書店, 119-140.

大久保愛 (1967).『幼児言語の発達』東京：東京堂出版.

金愛蘭 (2006).「外来語『トラブル』の基本語化―20世紀後半の新聞記事における―」『日本語の研究』2(2): 18-33.

迫田久美子 (1996).「指示詞コ・ソ・アに関する中間言語の形成過程―対話調査による縦断的研究に基づいて―」『日本語教育』89: 64-75.

投稿者 (2012)~~「子どもの言語発達について―指示詞に基づく一考察」『言語発達研究』3. 東京：発達出版.~~ （投稿者の書誌情報は年代以外書かない）

American Educational Research Association. (1985). *Standards for educational and psychological testing*. American Psychological Association.

Davis, M. (2008-). *The corpus of contemporary American English* (*COCA*). <https://www.english-corpora.org/coca/>

Kennedy, M. (2018, October 15). *To prevent wildfires, PG&E pre-emptively cuts　power　to　thousands　in　California.*  NPR.  <https://www.npr.org/2018/10/15/657468903/to-prevent-wildfires-pg-e-preemptively-cuts-power-to-thousands-in-california> （オンラインニュース（対応する紙面版がないもの）はweb pageと等しく扱い、記事名を斜体に）

Langacker, R. W. (1993). Reference-point constructions. *Cognitive Linguistics*, *4*(1), 1-38.（APAではジャーナル名に続いて巻情報のみ斜体に）

Langacker, R. W. (2000). A dynamic usage-based model. In M. Barlow & S. Kemmer (Eds.), *Usage-based models of language* (pp. 190-211). Center for the Study of Language and Information.（書籍に掲載の論考についてはAPAに従いページ情報を(pp. xx-xx)と記載する）

Lee, S. Y. (2005). *Development in the L2 acquisition of English reflexives by Korean adults and children* [Unpublished doctoral dissertation]. Murdoch University.

Los Angeles County Department of Public Health. (2017, January). *Key indicators of health by service planning area.* http://publichealth.lacounty.gov/ha/　（Webpageタイトルは斜体に）

Okada, N. (2014). *Eigokyouiku to eibumpou no setten* [Interface between English education and English grammar]. Biseisha.

Schwarz, B. D. (2003, September 10). *The acquisition of the English copula*. [Paper presentation]. 8th National Conference of the Child Acquisition, Alexandria, VA.（発表タイトルは斜体に）

Tyler, A. & Evans, V. (2003). *The semantics of English prepositions*. Cambridge University Press.（最新APAでは出版地名は書かない）

Author. (2019). *~~Acquisition of the English dative alternation by Japanese speakers~~* ~~[Unpublished master’s thesis]. Reiwa University~~.（投稿者の書誌情報は年代以外は書かない）

Title of the Paper in English: Subtitle of Paper

~~First Name LAST NAME,~~ *~~Affiliation~~*　執筆者の情報は書かない

English Summary

Here comes an English summary of approximately 300 to 400 words. the abstract should be accurate, self-contained, concise and specific.

1. \* 本研究は，文部科学省の科学研究費（課題番号：~~No. XXXXXX~~）の助成を受けて行われている（執筆者の情報がわかるものは伏せて書くこと）。本誌の匿名査読者には，草稿に関して貴重なコメントをいただいた。 [↑](#footnote-ref-1)
2. 注は脚注とする。 [↑](#footnote-ref-2)